

報道関係各位
プレスリリース

2017年9月12日

世界の音楽 2017~2018

月琴の世界 ~幕末から明治時代に流行した明清楽の代表楽器



雅俗必携/月琴自在 明治 22(1889)年

満月のような円形状の胴が特長の月琴は明清楽の代表楽器です。実は、江戸時代には邦楽だけではなく、長崎に出入りする中国商人によって明や清の音楽—明清楽が日本にもたらされ全国的に流行していました。明治時代には邦楽、洋楽に混じって明清楽のレパートリーが演奏されていたこともあまり知られていません。そんな長崎に伝えられた明清楽は、長崎の風土にあった替歌や民謡に発展し、長崎県指定無形文化財になって、現在も引き継がれています。今回は、元長崎明清楽保存会の理事山田慶子さんと明清楽器研究者稲見恵七さんのお話と明清楽の代表楽器、月琴と唄の演奏によりその魅力を楽しんでいただけます。

講師

■ 稲見 恵七 (明清楽器研究者)

富山県魚津市出身。月琴奏法を長谷川敏幸氏より学ぶ。明清楽楽器に魅了され長谷川氏と共に明清楽資料を精力的に収集。2004年には琉球御座楽復元演奏研究会の依頼により、長線(阮咸)・月琴・四線・胡琴を製作。東京音楽大学民族音楽研究所初代所長、伊福部昭氏が遺した明清楽楽器と御座楽楽器の共通性を見だし、以来、東京音楽大学民族音楽研究所公開講座や、同研究所民族楽器入門講座などで講師を務める。

■ 山田 慶子 (元長崎明清楽保存会理事)

1943年 長崎県諫早市に生まれる。

1960年 長崎県立諫早高校卒業。日本電信電話局(現NTT)入社

1982年 日本電信電話局退社。月琴を小曾根はる氏、中村キラ氏に師事。胡琴を独学する。

1984年 長崎明清楽保存会事務局長。国立劇場「胡弓Ⅱ」に出演。二胡を趙国良氏に師事、現在に至る。長崎明清楽保存会副会長「清楽の調」として独立。



開催概要

- 日時：2017年10月14日(土) 14:00~15:30 (13:30開場)
- 会場：日比谷図書文化館 4階 スタジオプラス (小ホール)
- 定員：60名 (事前申込順、定員に達し次第締切)
- 参加費：1000円
- 申込方法：来館(1階受付)、電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)いずれかにて、
①講座名、②お名前(ふりがな)、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：中澤 nakazawa-hiroyuki@shopro.co.jp / 並木 namiki-yuri@shopro.co.jp

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 TEL：03-3502-3342 / FAX：03-3502-3341